

第1回 簿記ってナニ？（I）

<要 点 整 理>

1. 簿記とは

- ・最も簡単にかつ一言で説明すると、「帳簿記録の略」のことを簿記といいます。
- ・また、帳簿というのは、「おこづかい帳」や「家計簿」が身近な帳簿の例としてあげられます。「おこづかい帳」や「家計簿」といったこれらの帳簿に記録することが簿記なのです。
- ・会社の場合も同様で、商品を販売したりお金を借りたりなど様々な活動を帳簿に記録していきます。したがって、会社の活動を帳簿に記録していくことも簿記ということになります。

2. 簿記をすることで何ができるの

- ・「おこづかい帳」や「家計簿」をつけることで、二つのことを知ることができます。まず一つは、お金がいくら残っているかを知ることができます。「おこづかい帳」や「家計簿」をつけることで、いちいち財布の中のお金を数えなくても知ることができるということです。ちなみに、お金がいくら残っているかということを簿記では**残高**といいます。
- ・もう一つは、一定期間（例えば一週間や一ヶ月など）のやり繰りの状況を知ることができます。例えば、おこづかい1,000円をもらって一ヶ月間で800円使ったとしたら、200円のお金を残せたということになり、うまくやり繰りができたということになります。
- ・会社の場合も同様で、会社の活動を帳簿につけることによって、残高の状況とやり繰りの状況を知ることができます。会社の場合は、これに加えて残高の状況を1つの表にまとめてしまいます。この表を**貸借対照表**といいます。
- ・また、やり繰りの状況も1つの表にまとめます。この表を**損益計算書**といいます。貸借対照表と損益計算書については、後で詳しく解説します。ちなみに、損益計算書においては会社のもうけが計算されますが、会社のもうけのことを簿記では**利益**といいます。

3. 会計期間と、期首、期末

- ・会社のもうけは、通常一年ごとに計算して世の中に発表しますが、いつからいつまでを一年間とするかについては、会社が自由に決められます。ちなみに、日本の場合は4月1日から3月31日までとする会社が多く、欧米の場合は1月1日から12月31日までとする会社が多いようです。
- ・簿記では、会社のもうけを計算する一年間のことを**会計期間**といいます。そして会計期間の初めの日のことを**期首**といい、最後の日を**期末**といいます。
- ・なお、大きな会社は世の中に与える影響が大きいため、半年ごとや四半期（三か月）ごとにもうけの計算を行い、公表することが必要となっています。